

海洋科学技術センター研修報告書

平成12年10月6日(木) 5 日目

時間	訓練項目	訓練内容	使用資器材	備考
1時限 08:00～ 08:50				
2時限 09:00～ 09:50	潜水法規	労働安全衛生法 労働安全衛生規則 高気圧作業安全衛生規則	潜水土テキスト P269～ P306	
3時限 10:00～ 10:50	同上			
4時限 11:00～ 11:50	救急再生法	潜水事故	ビデオ	
5時限 13:00～ 13:50	スクーバ潜水 (基本反復訓練)	BCの取り扱い 訓練 潜降浮上訓練 水中泳法 マスククリアー レギュレータークリアー ストップバルブの開閉 リザーブバルブの開閉 水中脱装着	BC使用	3mプール使用
6時限 14:00～ 14:50	同上		BC使用	3mプール使用
7時限 15:00～ 15:50	スクーバ潜水	暗中潜水 (障害物無し) 妨害排除	BC使用	3mプール使用
8時限 16:00～ 16:50	スクーバ潜水	暗黒潜水 (障害物有り)	BC使用	3mプール使用
9時限 17:00～ 17:50	スクーバ潜水	修了検定(実技)	BC使用	全プール使用

研修レポート 5日目

2 時限 (座学) 三谷 指導員

- ・ 潜水法規 潜水士テキスト P 2 6 9 ~ P 3 0 6
- ・ 労働安全衛生法 第 1 条 (目的)
事業場内における責任体制の明確化
危害防止基準の確立
事業者の自主的活動の促進措置を講ずる等の総合的計画的な対策の促進
労働者の安全と健康の確保
快適な職場環境の形成の促進
- ・ 関連法規 研修テキスト P 1 6 5 ~ P 1 8 3
- ・ 潜水業務とは、潜水器を用い、かつ、空気圧縮機若しくは手押しポンプによる送気又はボンベからの吸気を受けて、水中において行う業務。
- ・ 講義の中で説明があったところ
労働者、使用者、事業者、適用除外、潜水士免許
健康診断、定期健康診断
- ・ 潜水業務に必要な設備
潜水機の点検と修理、潜水組織

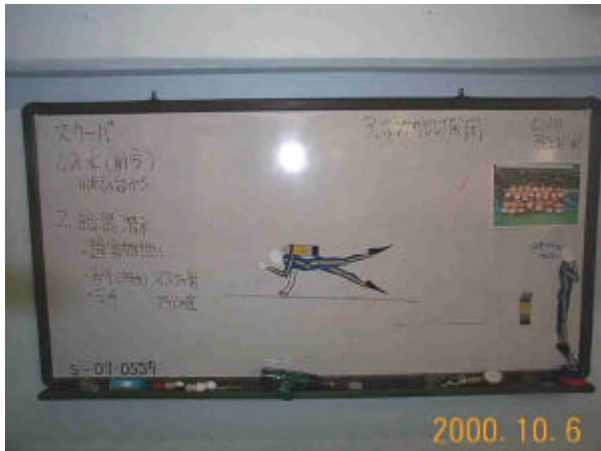
3 時限 (座学) 竹内 指導員

- ・ 救急再圧法 研修テキスト P 1 5 5 ~ P 1 6 4 を参照
- ・ 救急再圧法は、高圧環境下の作業において、「減圧症」の発生をみた場合、あるいは 作業中の不測の状態による緊急減圧 (浮上) で、「減圧症」または「空気塞栓症」が発生した場合の初期対策及びそれらの予防のための緊急の処置対策として、再圧室で再加圧をすることをいう。
- ・ 救急再圧の原理は、「減圧症」や「空気塞栓症」は、共に血中または体内に形成された、或いは流入した気泡によって引き起こされるため、この気泡の体積を再加圧することにより減少させ、体外に排泄する。
- ・ 減圧症の判定と標準再圧治療法の使い分け、テキスト P 1 5 7 参照
- ・ パニックを起こした人は、呼吸が浅く速くなる。また、浮上した時は、レギュレーターをはずしてしまう。

- ・ 潜水リーダーは、呼吸の管理に注意する。

5 時限 ~ 6 時限 (プール実習)

- ・ スクバー潜水 (基本反復訓練)



水面泳法 (P 5) 3 m プールを 5 周
 潜降浮上訓練、5 本
 マスククリアー、3 回
 レギュレータークリアー、3 回
 ボンベバルブ開閉 (P 2 4) 2 回
 リザーブバルブ開閉 (P 2 4) 2 回



水中脱装着 (P 3 3 , 3 4) ボンベ 1 周
 ボンベ + ウェイト 1 周
 ボンベ + マスク 1 周

7 時限目 (プール実習)



- ・ 暗黒潜水 (障害物無し)
 前が見えないようにマスクに工作し、
 全員で 2 0 分間を 3 m 側プールで潜水する。

8 時限目 (プール実習)

・ 妨害排除訓練



2 班に分かれて、妨害する班と妨害される班に編成し、1 班が 20 分間行った。

(内容は、フィン、マスク、ウエイト外し、ボンベバルブの閉鎖)



・ 暗黒潜水 (障害物有り)

前が見えないようにマスクに工作し、全員で 20 分間を 3 m 側プールで、ロープや網を排除しながら潜水を行う。



7 時限目 (実技修了検定)

・ BC で実施

内容 水面泳法、潜降、浮上、マスククリアー、レギュレータークリアー、

フィンキック 3 種類、ボンベバルブ開閉、リザーブバルブ開閉、水中脱装着 (ボンベ、ボンベ + ウエイト、ボンベ + マスク) エアーステーション

5 日目終了